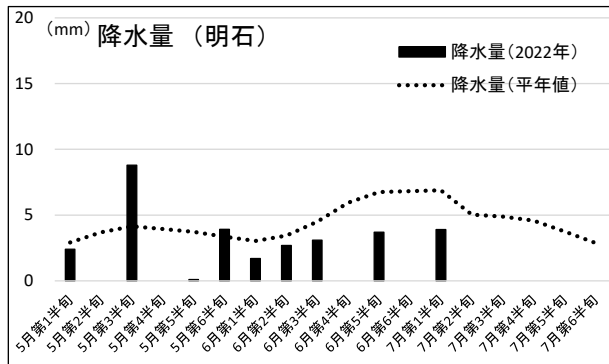
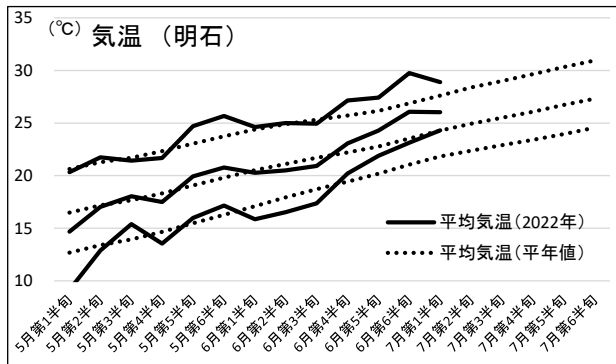


令和4年度 東播磨地域稲作気象台情報 第1号

発行：令和4年7月7日
NOSAIひょうご東播磨事務所

1. 気象状況 (気象庁データ [明石]：5月～7/5)

期間の気温は平年よりやや高めに推移しましたが、降水量は平年より少なく経過しました。今年の梅雨期間(梅雨入り：6月14日、梅雨明け：6月28日)は14日間で最短となりました。



2. 生育状況 (県立農林水産技術総合センター [加西] の気象感応調査結果：7月5日現在)

品種	草丈	茎数	葉数
キヌヒカリ	53cm (平年比104)	447本/m ² (平年比125)	9.8枚(平年差+0.1)
ヒノヒカリ	28cm(平年比93)	311本/m ² (平年比172)	8.9枚(平年差+1.2)

3. 病害虫発生程度 (東播磨管内17定点ほ場での予察調査結果：7月5日実施)

	本田払い落とし					本田すくい取り				
	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ	フタオビコヤガ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ	カメムシ類
明石・播磨	少	無	無	少	無	少	少	無	少	
稲美	少	無	無	少	無	無	無	無	無	
加古川北部	少	少	無	少	無	無	無	無	少	
高砂 加古川南部	少	少	無	無	無	無	少	無	少	

	病害調査							虫害調査 (見取り)			
	葉いもち病	穂いもち病	紋枯病	縞葉枯病	ばか苗病	もみ枯細菌病	稲こうじ病	フタオビコヤガ	ニカメイガ	イネツトムシ	コブノメイガ
明石・播磨	無		無	無	無			無	無		
稲美	無		無	無	無			無	無		
加古川北部	無		無	無	無			無	無		
高砂 加古川南部	無		無	無	無			無	無		

各地で、ヒメトビウンカ、セジロウンカ及びツマグロヨコバイの発生が見られましたが、密度は低い状況です。トビイロウンカ、フタオビコヤガ、ニカメイガの発生は見られませんでした。病害の発生は見られませんでした。一部のほ場内に補植用苗の放置が見られますので葉いもちの耕種的防除のため早急に処分してください。

4. 今後の栽培管理について

(1) 病害虫防除

今回の調査では、葉いもち病の発生は見られませんでした。が、気象条件や生育状況によっては、まだ、出ていないほ場も、今後も発生する可能性があります。ほ場で葉色の濃いところや日当たりの悪いところがあれば、葉いもち病が発生していないか、こまめに観察を継続しましょう。いもち病が多発している場合は、栽培こよみなどを参考に、治療効果の高い薬剤で早急に防除を実施しましょう。

*いもち病の発生予測にBLASTAM（ブラスタム）情報を活用しましょう

BLASTAM（ブラスタム）とは、アメダスデータをもとに「いもち病」の感染に好適な条件であったかどうかを推定するシステムです。感染好適条件が連続して広域で出現した場合、7～10日後に広域的に葉いもちの病斑が確認され始め、さらに7～10日後には発病の増加が始まると推定されますので、ほ場を見回り葉いもちの発生に注意してください。

URLアドレス：<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/blastam>（兵庫県病害虫防除所）

*ヒメトビウンカと縞葉枯病

ヒメトビウンカ（越冬前世代、秋）のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は減少傾向にあります。が、加古川市志方町の水田で昨年9月に採集されたヒメトビウンカの保毒虫率は1.3%でした。水稻生育初期の発病株は、その後の感染源となり、出穂期の発病を助長させるため、「出すくみ症状」や「ゆうれい症状」の株を見つけたら、すぐに抜き取り、感染拡大を防止しましょう。



イネ縞葉枯病

*斑点米（カメムシ類）対策の徹底を

今回の調査では、カメムシの発生が確認されませんでした。が、近年、第2回および第3回調査で、斑点米の原因となるカメムシ類が要防除密度となる年が増えています。カメムシ類は雑草が繁茂しているところに集まり繁殖しますので、ほ場周辺の休耕田、池の堤や法面等の草刈りを実施しましょう。なお、出穂期の草刈りはカメムシを水田に追い込み、逆効果となる（斑点米が増加する）可能性がありますので、水田周辺の畦畔等の草刈りは出穂の2週間前までに終わるよう心がけましょう。

◎薬剤使用にあたっては、ラベル記載の適正使用基準を遵守し、隣接作物等へのドリフト防止に努めましょう。

(2) 水管理

<キヌヒカリ・コシヒカリ・あきたこまち>

中干しが終わり、入水時期を迎えています。中干し期に出た新しい根を湛水状態に馴らすため、間断灌水（田面に水がなくなれば入れる）を実施し、丈夫で活力のある根を維持しましょう。

<ヒノヒカリ>

有効茎数の8割（株当たり18～20本）が確保できたら、幼穂形成期までに1週間程度の中干しを実施しましょう。排水不良田は、中干しを早く始め、強めに行いましょう。中干し終了後は、上記、早期米同様、間断灌水を実施しましょう。

(3) 施肥管理

穂肥は、中干しが終わり減水が落ち着いてから適期に実施しましょう。穂肥の時期や量は、稈長や一穂粒数への影響が大きいため、出穂期予測および葉色・葉鞘のヨード反応などの生育診断に基づき決定しましょう。

肥効調節型肥料（被覆尿素配合肥料）を用いた省力施肥体系でも、高温が続く場合は肥切れを起こす場合がありますので注意しましょう。

なお、葉いもちの発生ほ場では、病状の進展を防ぐため、穂肥を控えめにしましょう。

※兵庫県農業気象技術情報サイトへのアクセス方法

兵庫県ホームページトップ画面より、情報を探すから「農業気象技術情報」で検索して下さい。

(http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000097.html)

◎次回、稲作気象台情報第2号の発表は8月上旬です。（8月2日（火）調査予定）

発 行	:	NOSAIひょうご東播磨事務所
調 査 協 力	:	JA全農兵庫
支 援	:	東播磨農業改良普及事業協議会（構成員：明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町、JAあかし、JA兵庫南、JA加古川南、加古川農業改良普及センター）
お問合せ先	:	加古川農業改良普及センター 地域課 電話（079）421-9354